



代表取締役

野口 正人

埼玉県狭山市出身。16歳の時に鉄筋屋で修業を始め、18歳からは義父のもと内装屋として経験を積む。10年以上の下積みを経て2012年に独立。2017年には『正建コーポレーション』を設立し、現在に至る。

「御社は総合内装仕上工事会社とのことですが、内装仕上工事とは具体的にどのような部分の工事なのでしょう。」
 内装に関する全てに当たりますので、リフォームも、壁や天井を作るのも、内装仕上工事と言えます。範囲が広いので、たとえば下地や断熱、耐震、リフォームといったように工事が細分化され、それぞれを専門にする業者もあるんです。当社の場合、協力会社も含めて10名ほどながら、少数精鋭でトータルに手掛けられるのが強み。特に下地工事や断熱工事など、人の目には触れない中身の工事を得意としています。——それだけ幅広い工事を手掛けられるのは技術力の賜でしょうね。野口社長は早くから建設業界で修業を積まれたのですか。」

「そうですね。地元先輩に誘われ、16歳で社会に出て、まずは鉄筋屋に入りました。その前までは、ずっとサッカークラブの日々でしたね。幼少期は電車の運転手に憧れたりしましたが、兄がサッカーをやっていた影響で私も小学生から始め、気付けばサッカー選手が夢になっていました。選手だったところは結構良いところまでいったんですよ。トップ下という花形のポジションで、U16日本代表の候補にも入ったことがあります。」
 「凄じくないですか！ 辞めてしまうのはもったいないぐらいです。」
 でも、そのころには早く辞めたいと思うようになっていました。ダボダボのズボン履いて現場仕事をする姿が格好良く見えて、サッカー選手よりも職人に憧れるようになっていたんです。余談ですが、18歳からはまたサッカーを始め、仕事の傍ら社会人チームに入ってプレーしていました。もう35歳になりましたので今はやっています。——社長の二子息であれば、良い選手になる今につながっているのですか。こちらの会社はお義父様の後を継がれたのですか。」
 「いえいえ。一緒に仕事をする中で義父は体調を崩し、事業も畳んで引退することになったんですよ。それから自分一人で様々な現場を回り、修業時代も含め下積みを10年以上は経験しました。そして2012年にまずは個人事業主として独立し、2017年には法人化して『正建コーポレーション』を設立した次第です。」
 「独立当初から経営は上手く軌道に乗ったのでしょうか。」
 いやあ、全然です（笑）。特にリーマン・ショックの時は大変でした。仕事の単価がガクンと下がり、職人さんも内装屋さんも多くが辞めていきましたよ。その影響もあって、今は忙しくなった時に人手が全然足りなくなっているんです。なかなか日本人の職人は増えず、近年はこの現場でも外国人を見るようになってます。当社に



少数精鋭の職人たちを束ねる 総合内装仕上工事の匠

内装に関するあらゆる工事を一手に請け負い、完成へと導く総合内装仕上工事会社『正建コーポレーション』。迅速かつ丁寧・正確な施工は地域で高く評価され、2012年の創業から着実に成長を続けてきた。そんな同社を牽引する生粋の職人・野口社長に、タレントの布川敏和氏がインタビューを行った。

野口 正人



対談
布川 敏和

「その修業は何年ほど？」
 5年ほどですね。義父は職人氣質で厳しい人でした。腕が良く、頭も切れる。ある程度の経験を積んだ私が見ても「そこをそう組むか」と感嘆するような、思いがけない施工をしていたものです。もうこればかりは技術や知識ではなく感覚で、天性のものがありますから、私には義父は超えられないと早くから思っていました。義父は大工などの経験もあって色々応用を利かせていました。私は内装の仕事一本に絞って経験を積み、自分なりのやり方で身を立てていこうと決めました。」
 「その修業は何か？」
 最初は鉄筋屋に入ったことでした。最初は鉄筋屋に入りましたが、義父が内装屋を営んでいたんです。子どもができたこともあって、18歳の時には腹をくくり、義父のもとで見習いとして働き始めました。」

「最初は鉄筋屋に入ったことでした。最初は鉄筋屋に入りましたが、義父が内装屋を営んでいたんです。子どもができたこともあって、18歳の時には腹をくくり、義父のもとで見習いとして働き始めました。」
 「その修業は何か？」
 最初は鉄筋屋に入ったことでした。最初は鉄筋屋に入りましたが、義父が内装屋を営んでいたんです。子どもができたこともあって、18歳の時には腹をくくり、義父のもとで見習いとして働き始めました。」



布川 敏和

(タレント)

「景気悪化によって人材が大幅に減少したという内装業界。それでも野口社長は、ぶれることなく道一筋に歩み続けてこられました。今も経営の傍ら現場に立つ、その職人らしい生き様も含め、社長の技術と精神をぜひ次の世代に伝えていって下さい！」

guest comment

総合内装仕上工事業
 埼玉県知事許可(般-29)第71081号
 一級技能士 第12-1-152-11-0009号

株式会社 正建コーポレーション

埼玉県川口市大字笠幡 1476 番地
 URL: <https://www.masaken7.co.jp/>

check Point

職人としての腕と誇り

- ▼職人らしく決して多くを語らない野口社長。それでも対談の中で一度、他の話に比べて言葉に力がこもる瞬間があった。「品質性、質の良さです」——仕事で大事にすることは何か、との問いに対する答えだ。どの質問よりも強く、早く、社長は答えを言い放った。
- ▼いかに良い仕事ができるか。かつての職人というのは、それが全てだった。しかし、何もかもが合理化される今の時代、それは職人も例外ではなく、いかに合理的な工事ができるかという適応を余儀なくされている。相対的に「質」の重要性は薄れ、最近では「質にこだわっても評価されない」と話す職人も増えてきた。
- ▼それでも、職人に憧れた若かりし日から、義父のもと研鑽を積んだ修業時代、そして経営者となった今日まで、社長にとっての「職人」は変わらない。質の良いものを作る、その腕と誇りがあってこそ職人だ。